

令和元年度病虫害発生予察情報 注意報 第 3 号

令和元年 7 月 25 日
岩手県病虫害防除所

リンゴ褐斑病の早期発生が広くみられています。

既発生園や前年多発園では、速やかに特別散布を実施しましょう。

- 1 対象作物、病虫害 : りんご、褐斑病
- 2 対象地域 : 県下全域
- 3 発生時期 (加害時期) : -
- 4 **発生量** : **多**
- 5 予報の根拠

- (1) 7 月後半の巡回調査では、発生園地率は 29.0% (平年 1.3%)、発生程度の高い園地率は 9.7% (平年 0.6%) で、発生園地率・程度ともにいずれも過去 10 年で最も高い。(図 1)。早期発生を確認した園地は、いずれも前年秋期に褐斑病の発生が確認されている。
- (2) 地域別発病園地率は、県中部 (33.3%、平年 1.3%) および県南部 (36.4%、平年 1.8%) で高い (図 2)。
- (3) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) では、平年より早い 6 月第 1 半旬 (平年は 6 月第 3 半旬) に初発を確認するとともに、発病葉率は 7 月第 1 半旬以降に急増し、以後、平年よりかなり高く推移している (図 3)。
- (4) 早期発生が複数の園地でみられた地域では、秋期になると広域的に発生する傾向にある。
(平成 29 年度病虫害防除技術情報 No. 29-1「リンゴ褐斑病の多発要因の解析と発生予察法の改善」)
- (5) なお、前年秋期の発生園地率が高かったことから、園地内の伝染源密度は高いと考えられる。

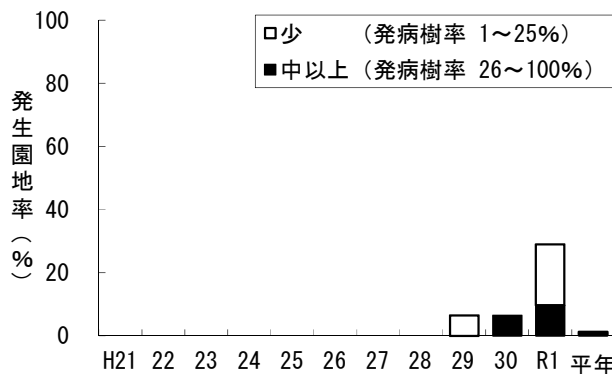


図 1 褐斑病の発生園地率の年次推移 (7 月後半)

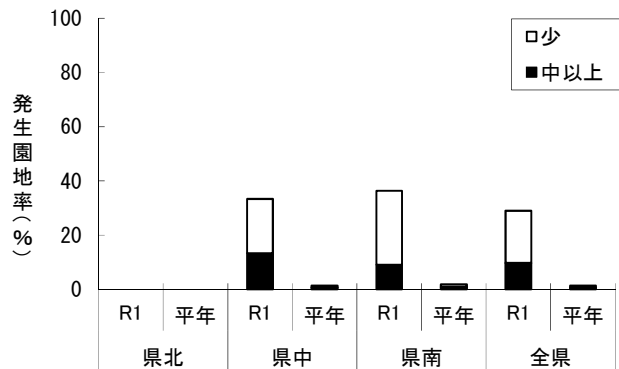


図 2 褐斑病の地域別発生園地率

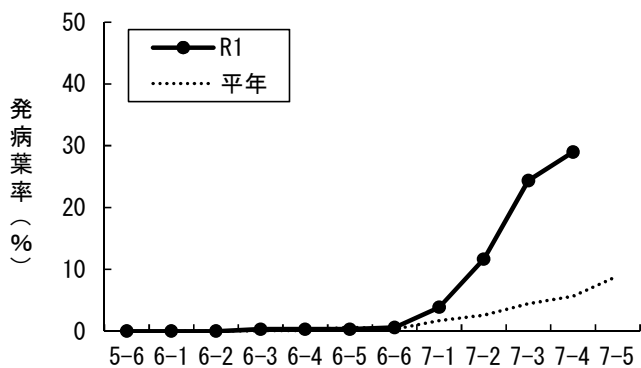


図3 基準圃場（北上市成田）における
褐斑病の発病葉率の推移
（月-半旬、ふじ、新梢葉）



図4 褐斑病の病徴
（黒色虫糞状の粒々が特徴）

6 防除対策

- (1) 本病の発生が確認された場合は、速やかにトップジンM水和剤またはベンレート水和剤を特別散布する。
- (2) 前年多発園（前年秋期に黄変落葉が目立った園地）で、本年、これまでに本病を対象とした特別散布を実施していない園地では、発生の有無にかかわらず、速やかに特別散布を実施する。
- (3) 定期的に園地をよく観察する。黄変葉や褐色の病斑葉が確認されたら、付近の葉を含めて観察する。本病であれば、病斑や病斑付近の緑色の部分に黒色虫糞状の粒々（分生子層）が必ず観察される（図4）。

～農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)～

【利用上の注意】

本資料は、令和元年7月24日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。

・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

(<https://i-agri.net/Index/gate003>)からご覧いただけます。